

浪速少年院要覧

四

298

20

298-20



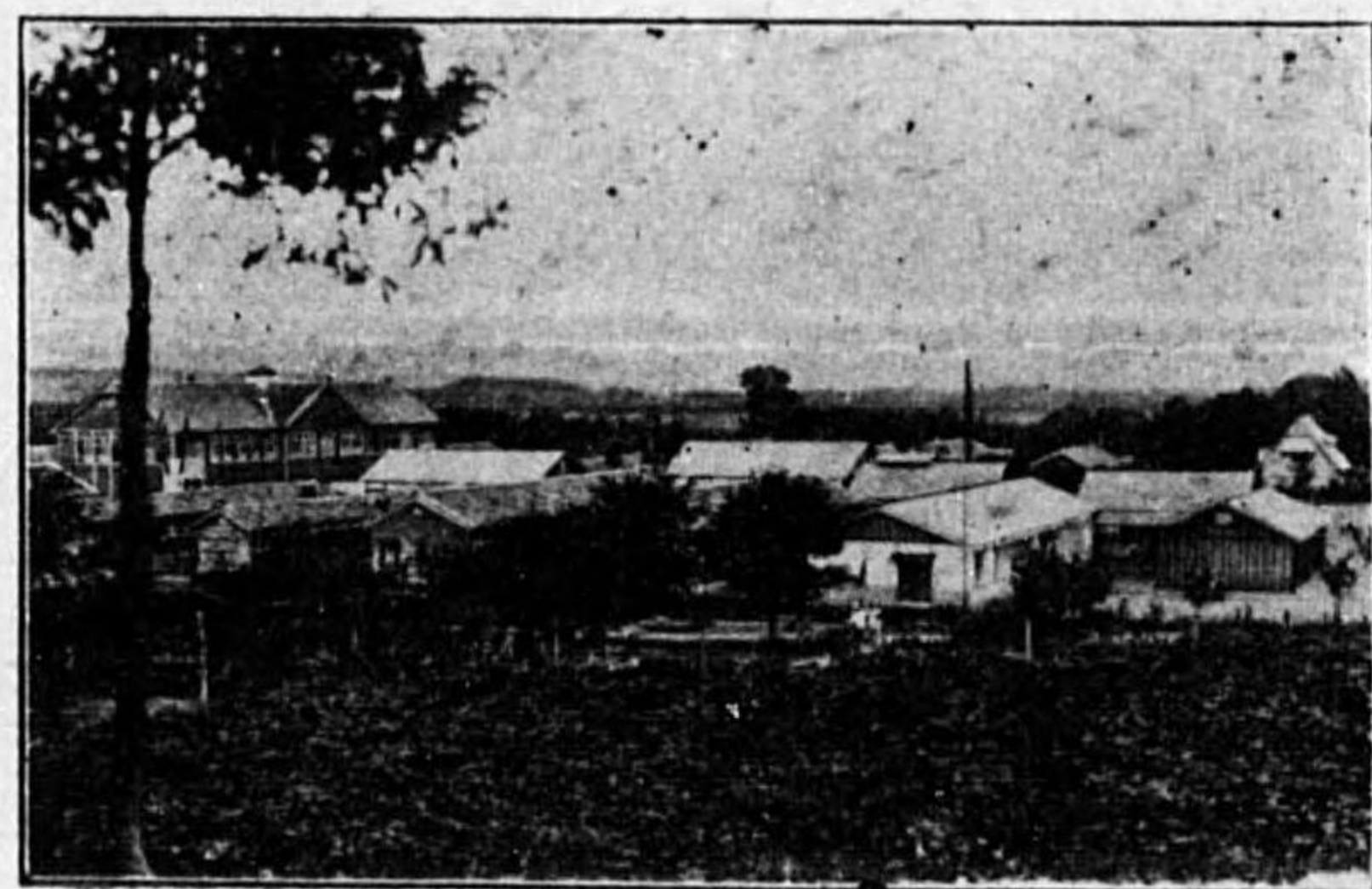
1200501366615



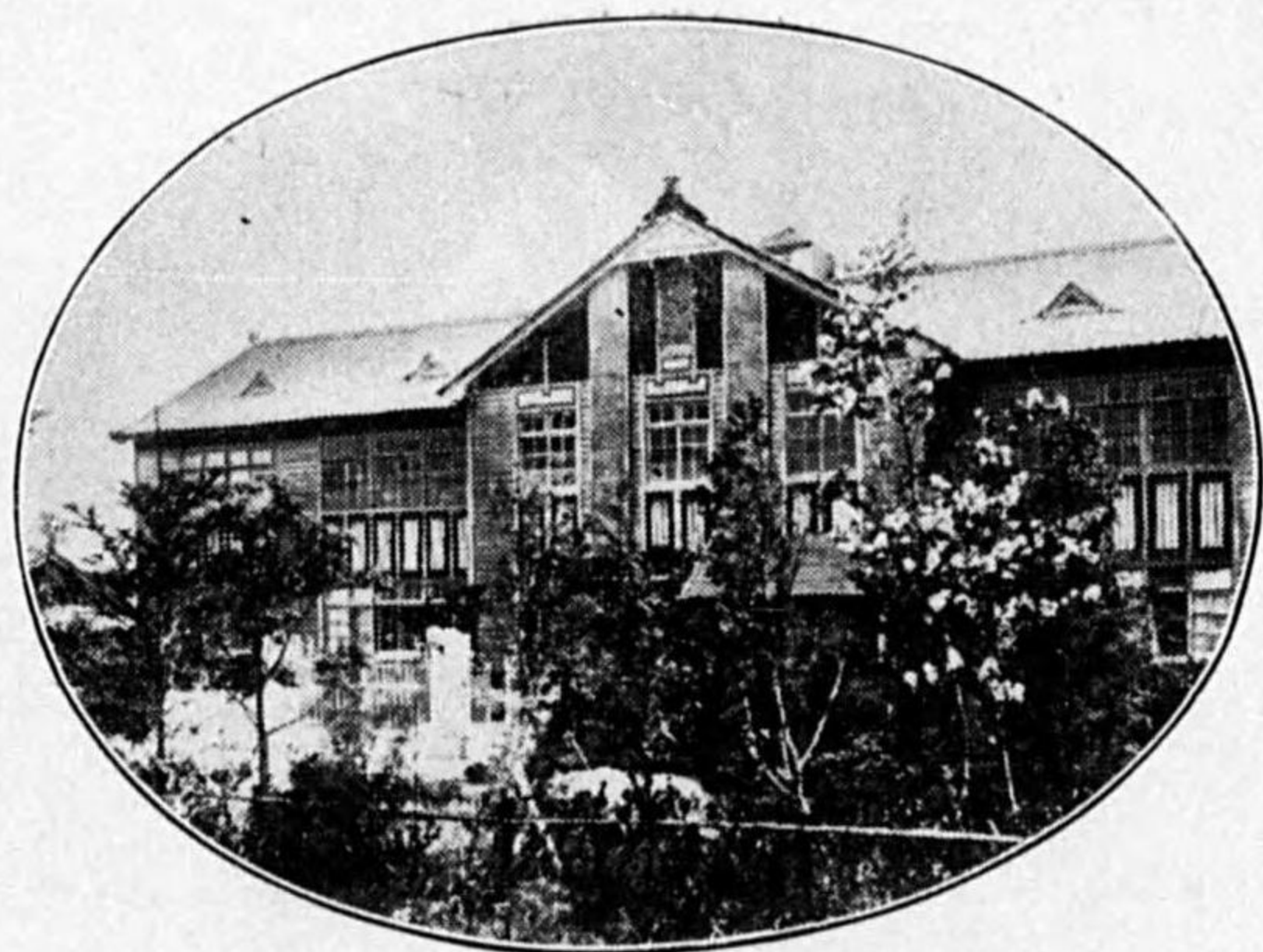
始



浪速少年院要覽

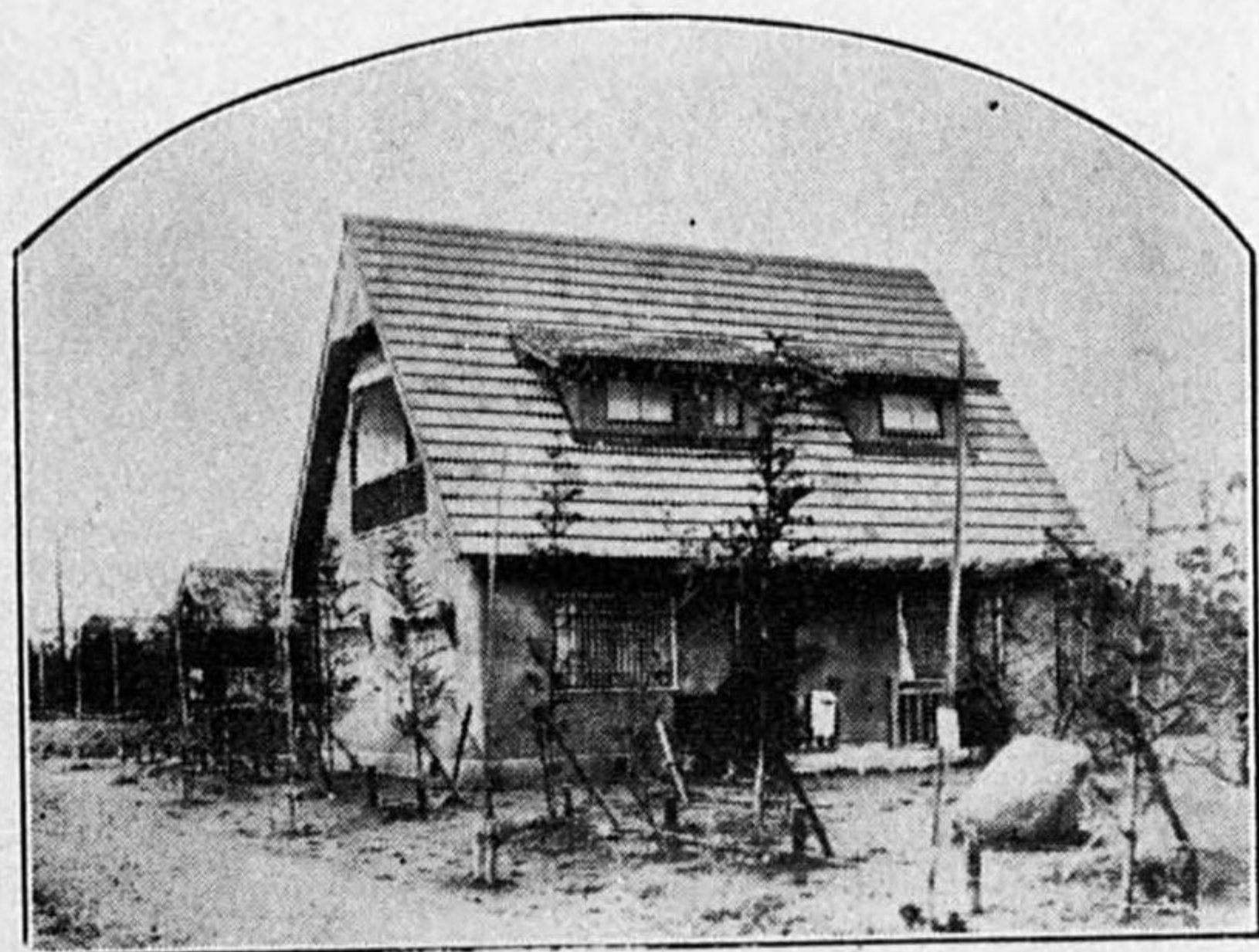


昭和四年六月



舍 廳

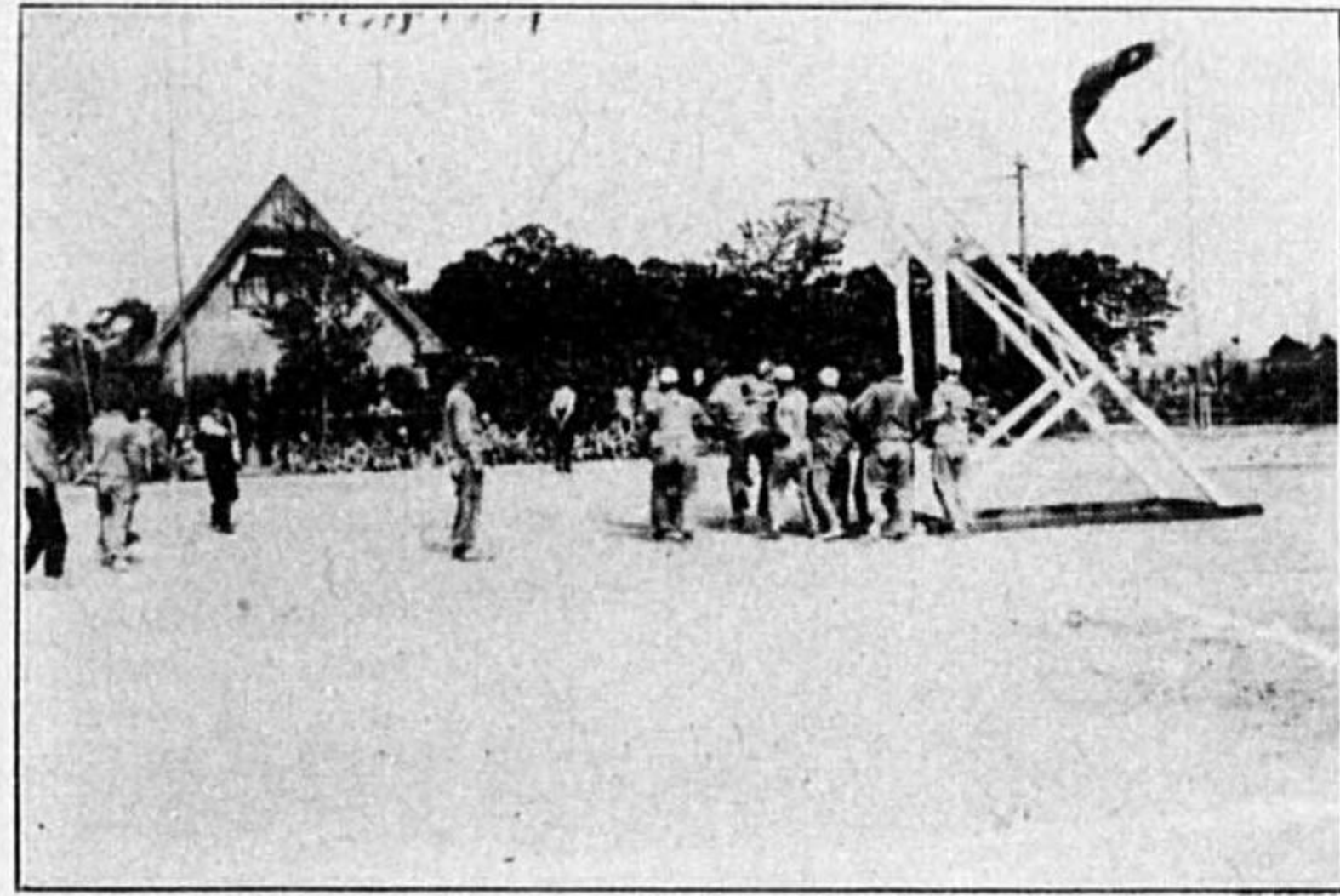
廳舎階上には學科教室、理科標本室、圖書室、製作品陳
列室及修省室あり。階下には院長室、教官室、會議室、
庶務課室及應接室を有す。建坪延三百坪。



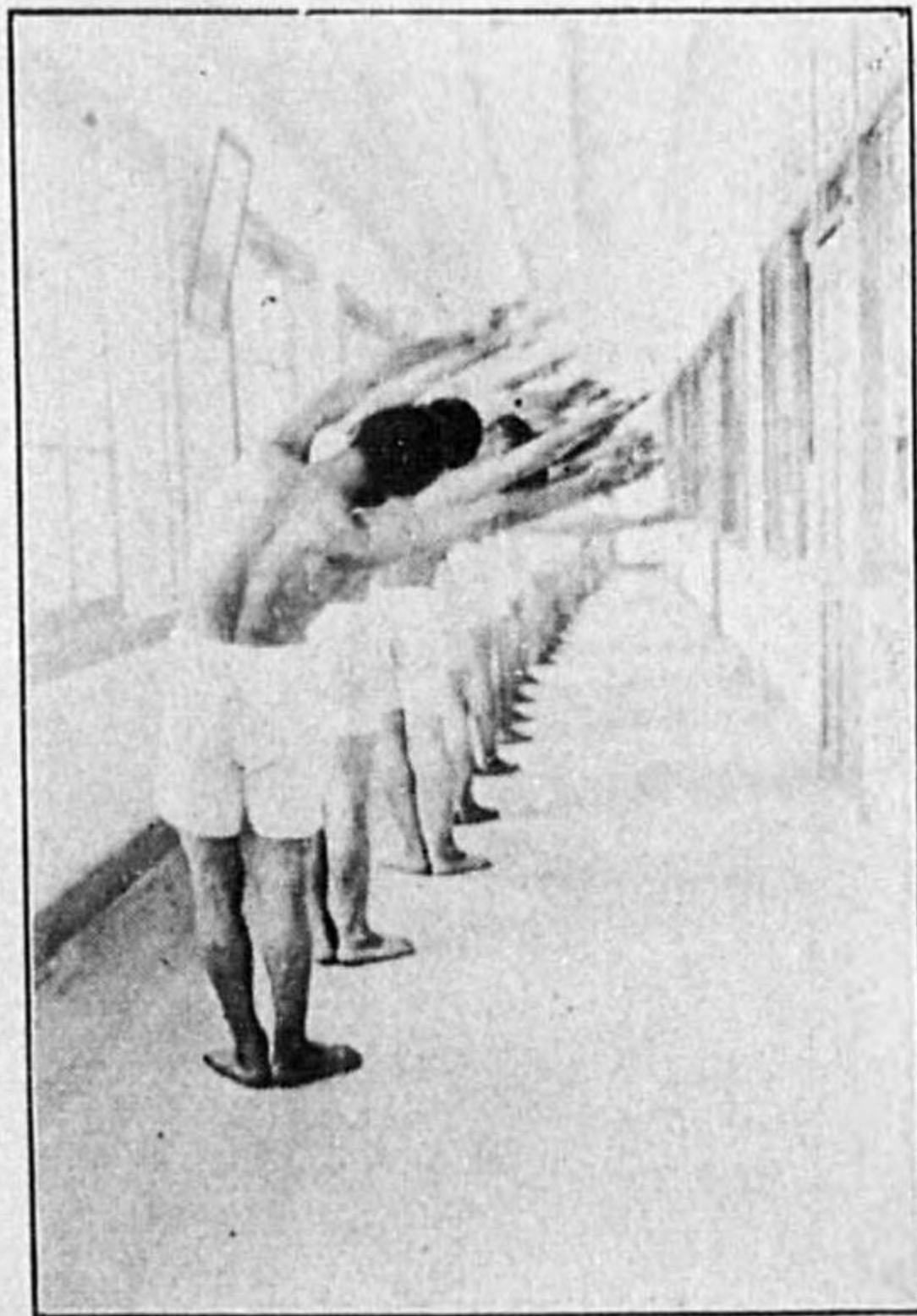
(寮 誠 至) 寮 族 家 八 第

學寮は七棟、家族寮は六棟八戸よりなる。學寮生中成績
良好なる者を擧げて家族寮に收容し、當然たる和氣の裡
に更らに其性情を陶冶するに努めしむ。

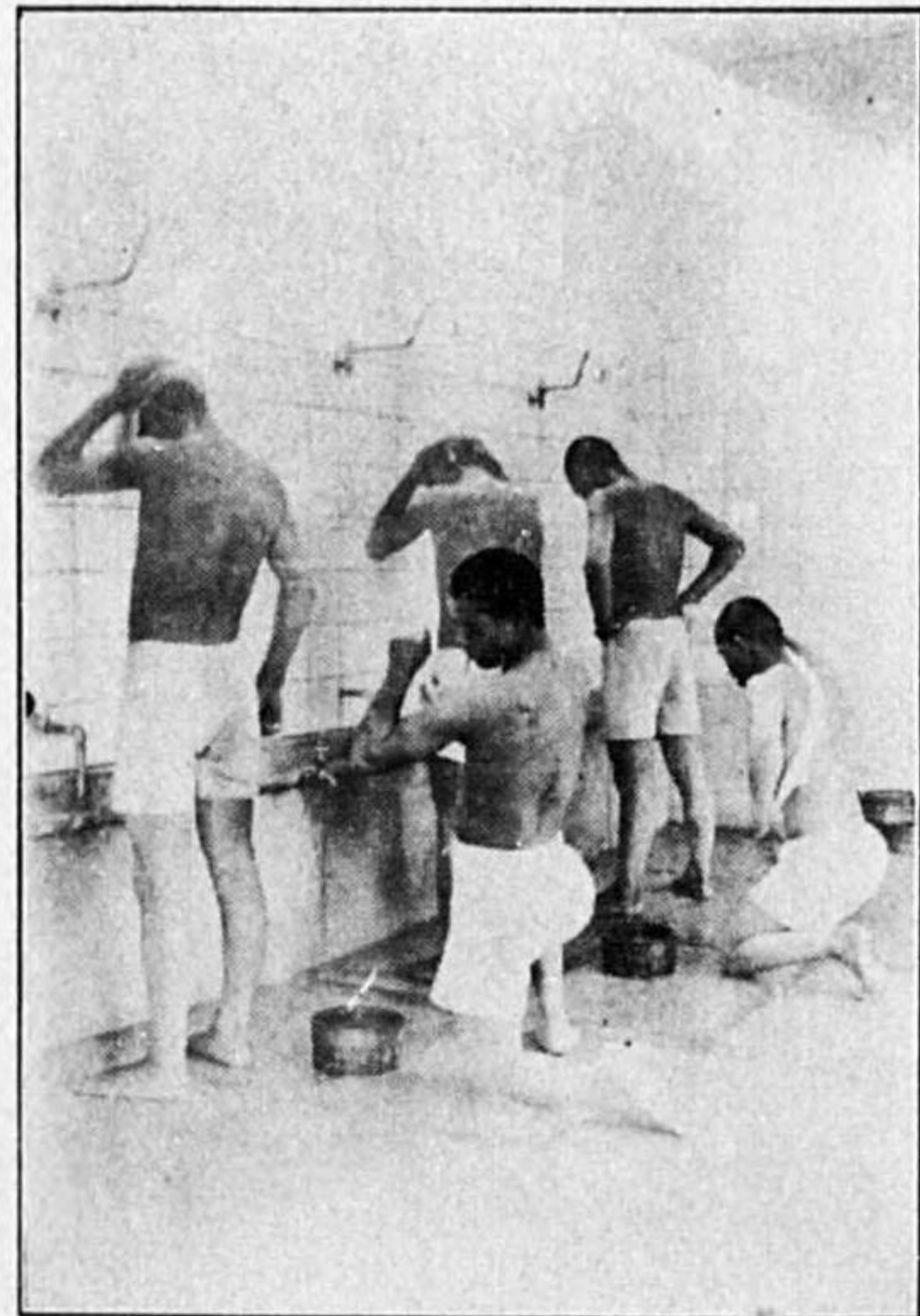
バスケットボール



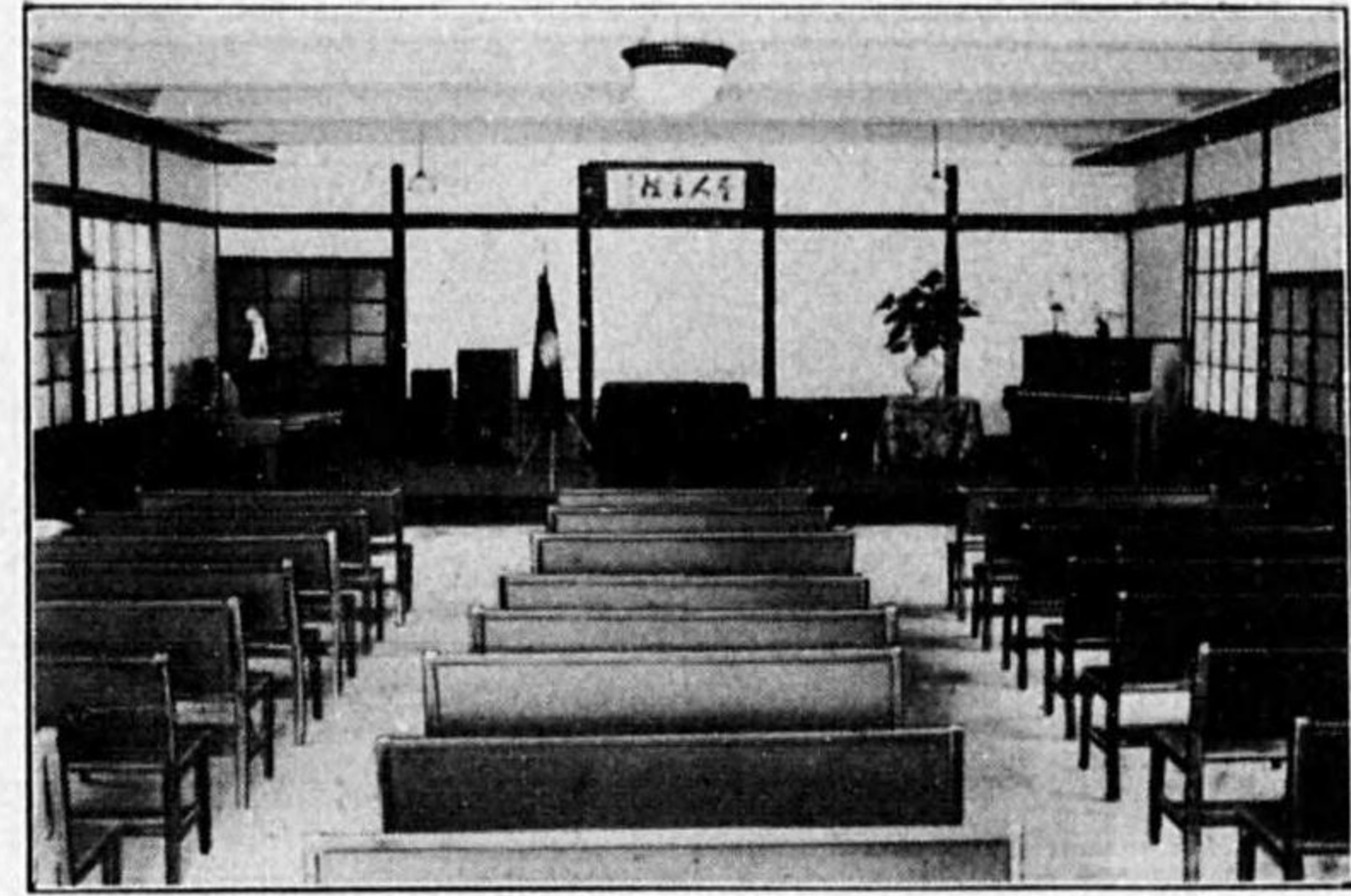
は或、し課を操體民國及療摩水冷々日はに生院
家、ひ培を木花は或、めしは競を技の等球籃、球庭
圖をと達暢と鍊鍛の身心其、てめしせ養飼を畜
かしら



操體民國

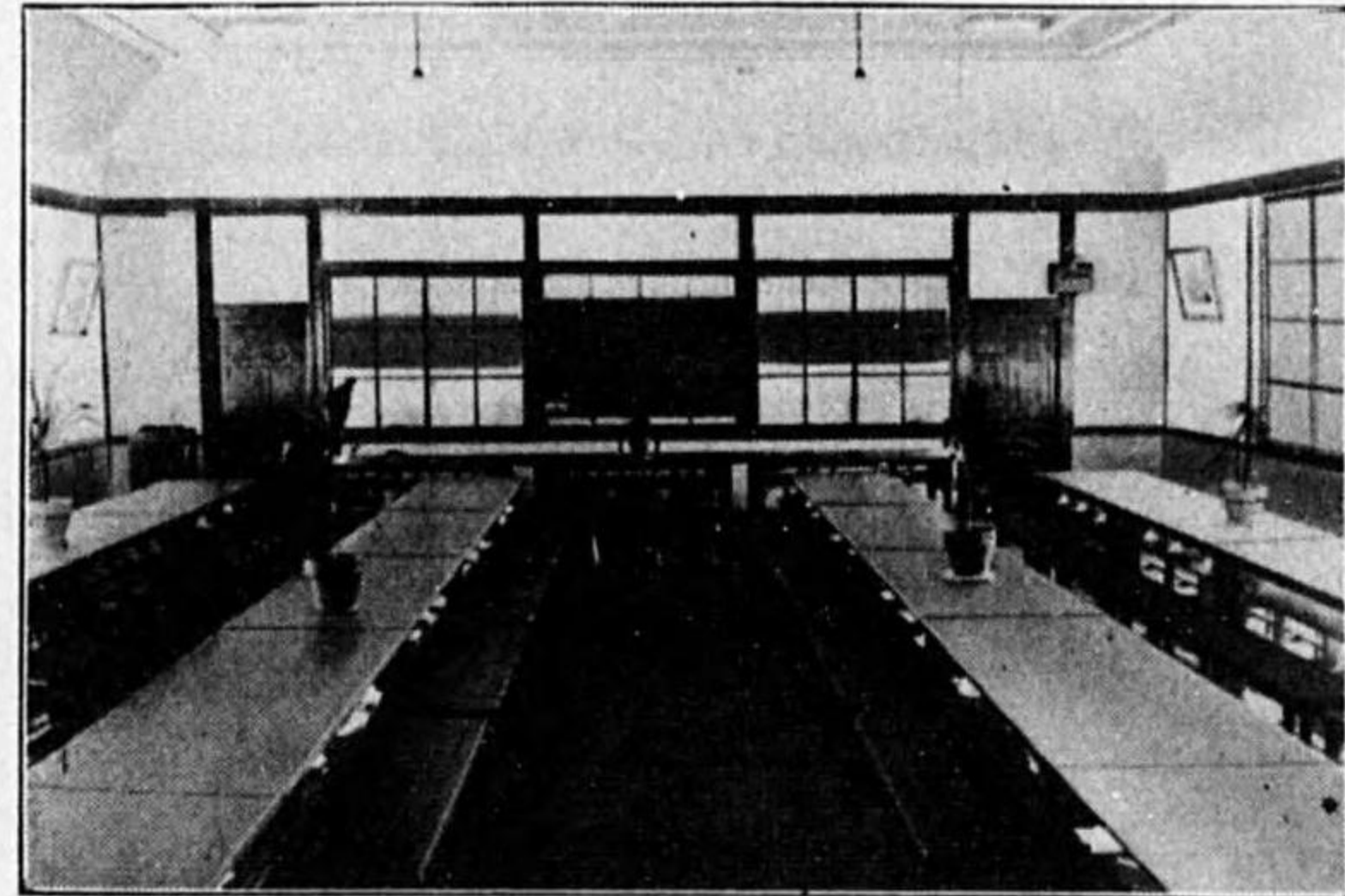


浴雨驟



講堂

講堂は音樂教室を兼ね、左方にある院旗を
日影と稱す。光明を欣求するの花向日葵を其
徽章となす。



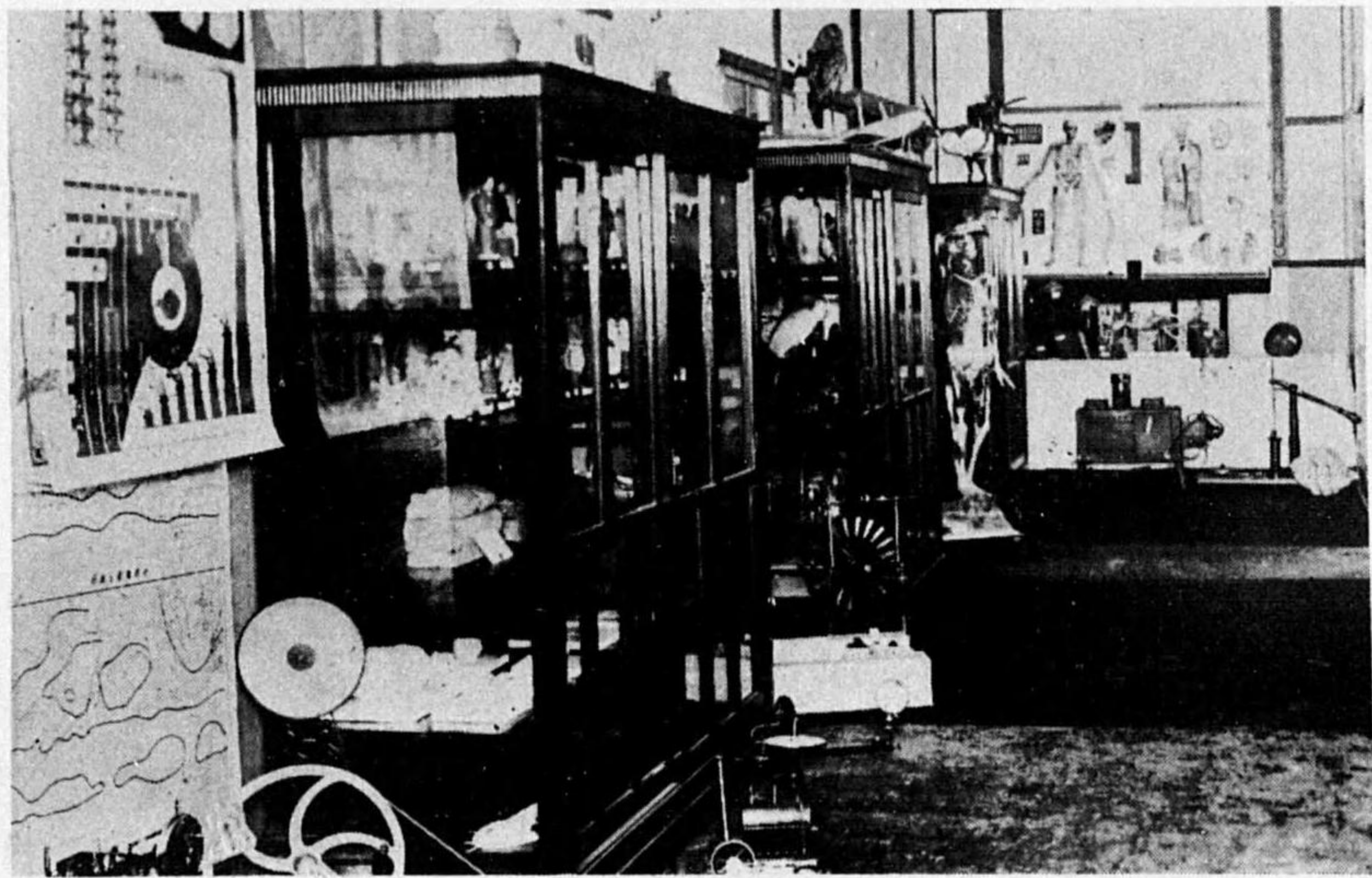
食堂

食堂に於ては毎日午餐後職員の食卓講話あり
て訓話、ニュース等を聞かめ或はレコード
演奏等を試み教養の一端に資すると共に相互
の親睦を計つてゐる。

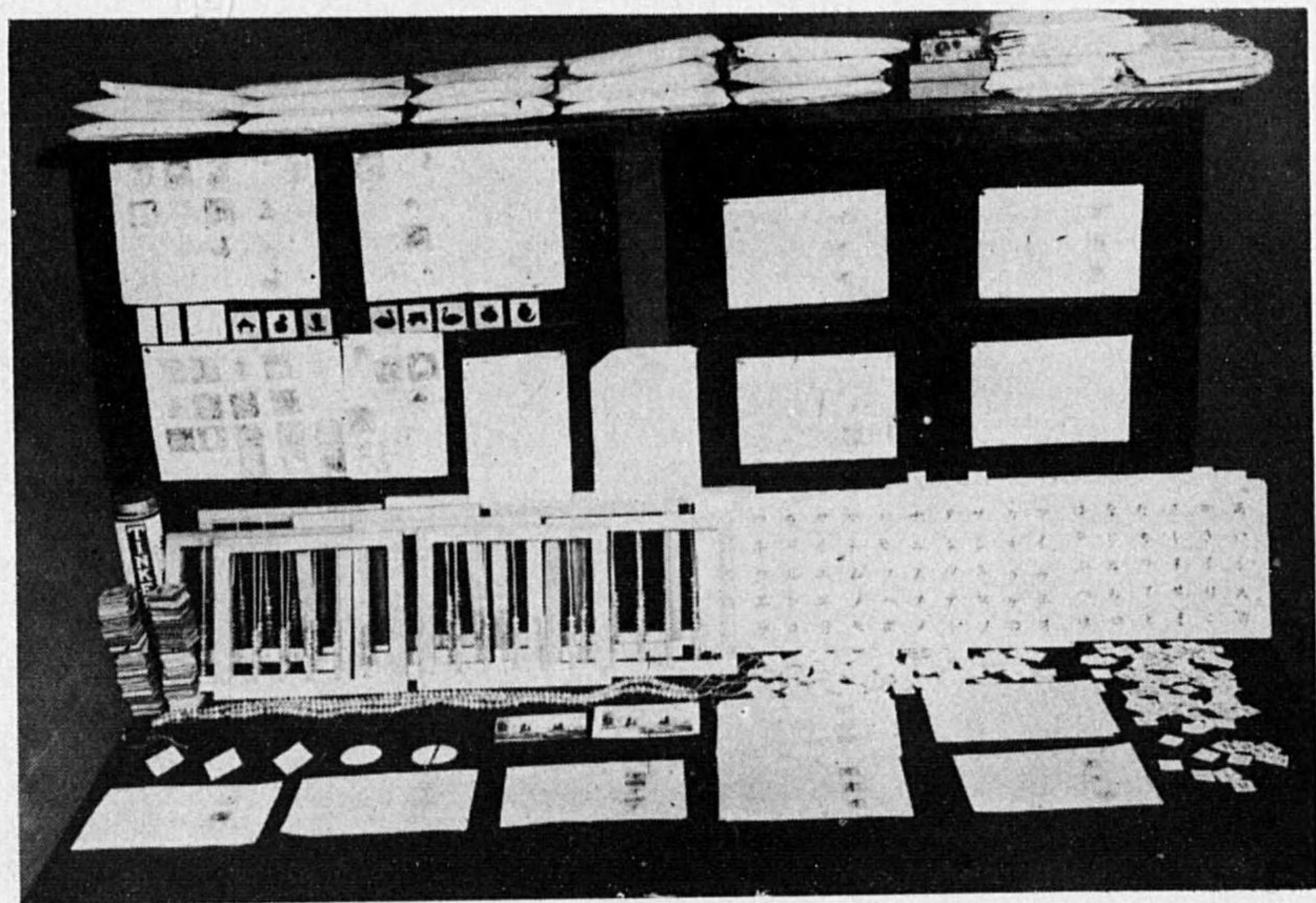


室習自寮學四第

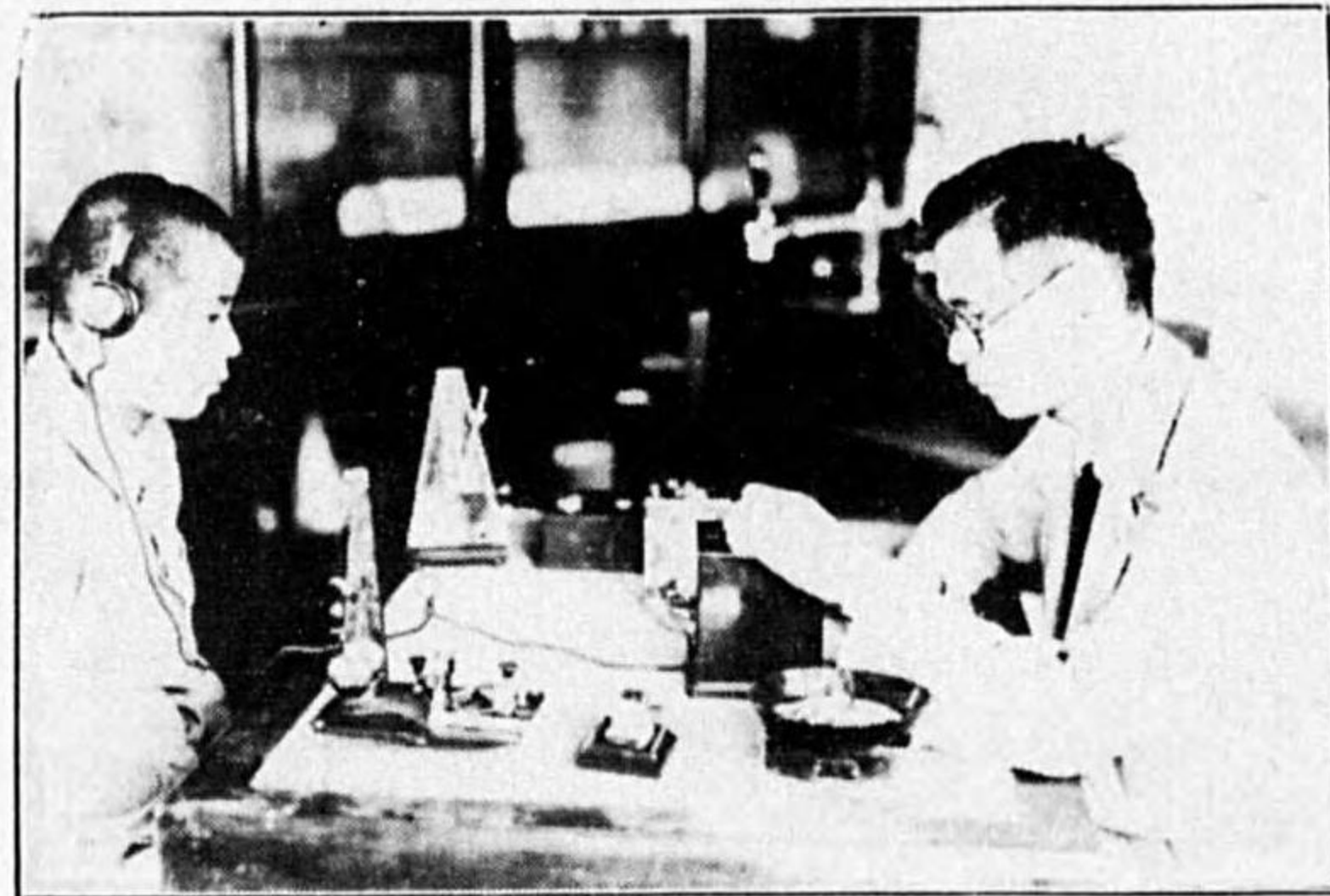
學寮は東三棟、西四棟より成る。學寮内に在
りては嚴格なる規律の下に日夕の行事を習熟
せしめ、院生相互提携掖して修養の事に當
らしむ。



室 本 標 科 理

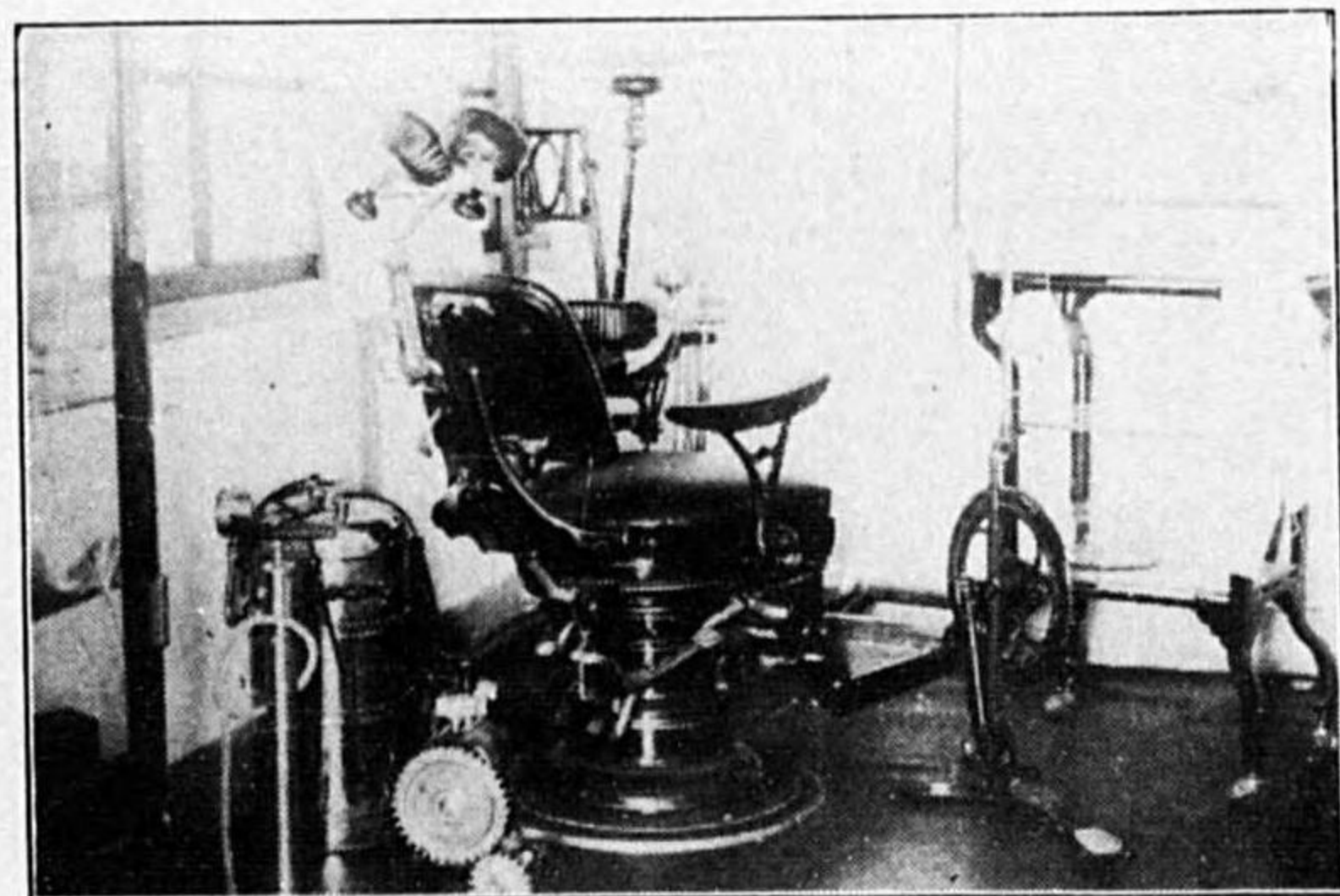


具 用 育 教 者 弱 薄 神 精



室 查 考 性 心

推理、記憶、想像、學習、注意等の一般素質を
探究して教育の基礎概念を確立すると共に、
適性検査を施行して職業の指導に勉む。



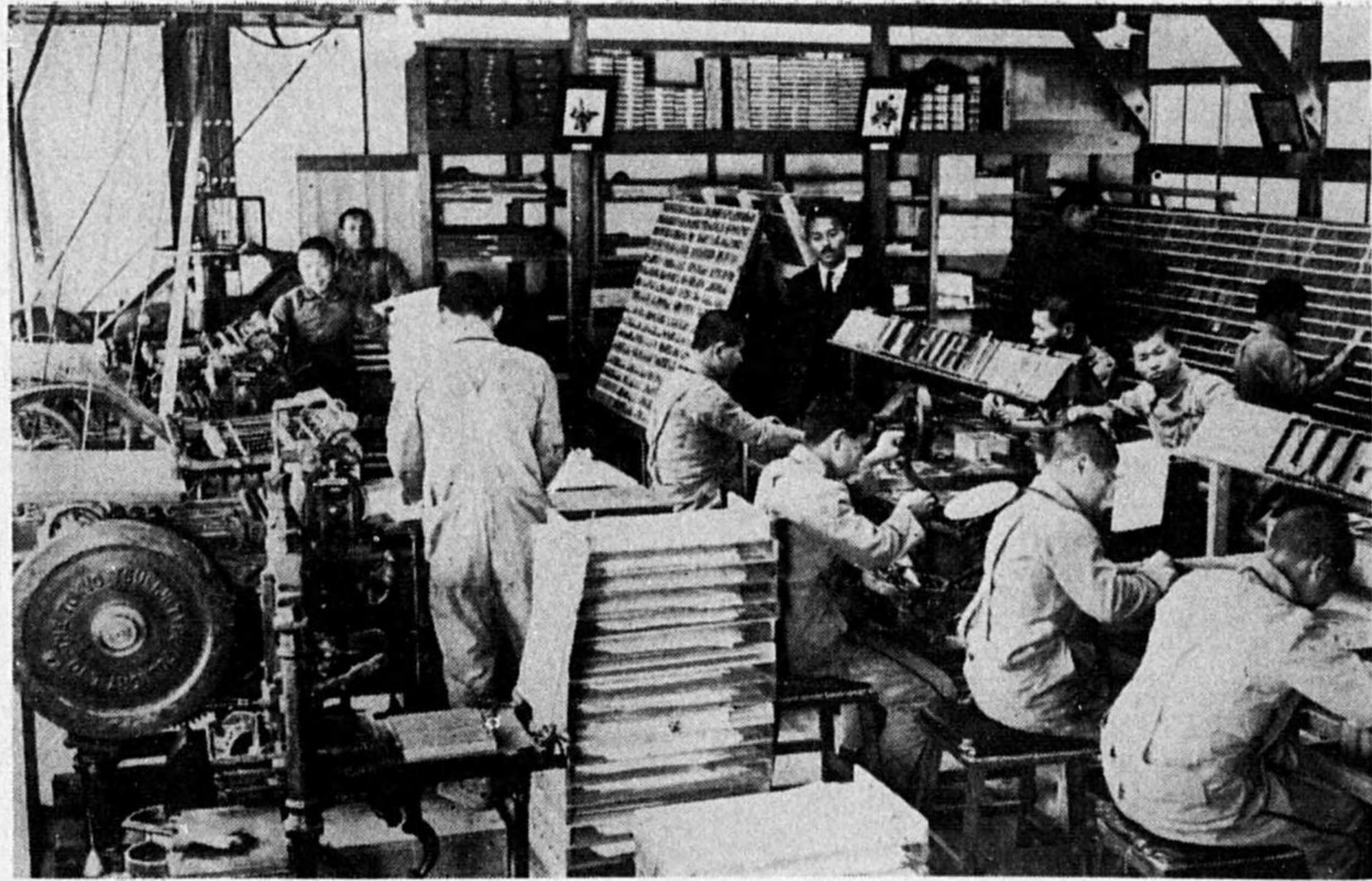
室 科 齒

醫務室は二棟より成り、診察室、調剤室、手
術室、醫官室、寫眞暗室、保養室、看護人室等

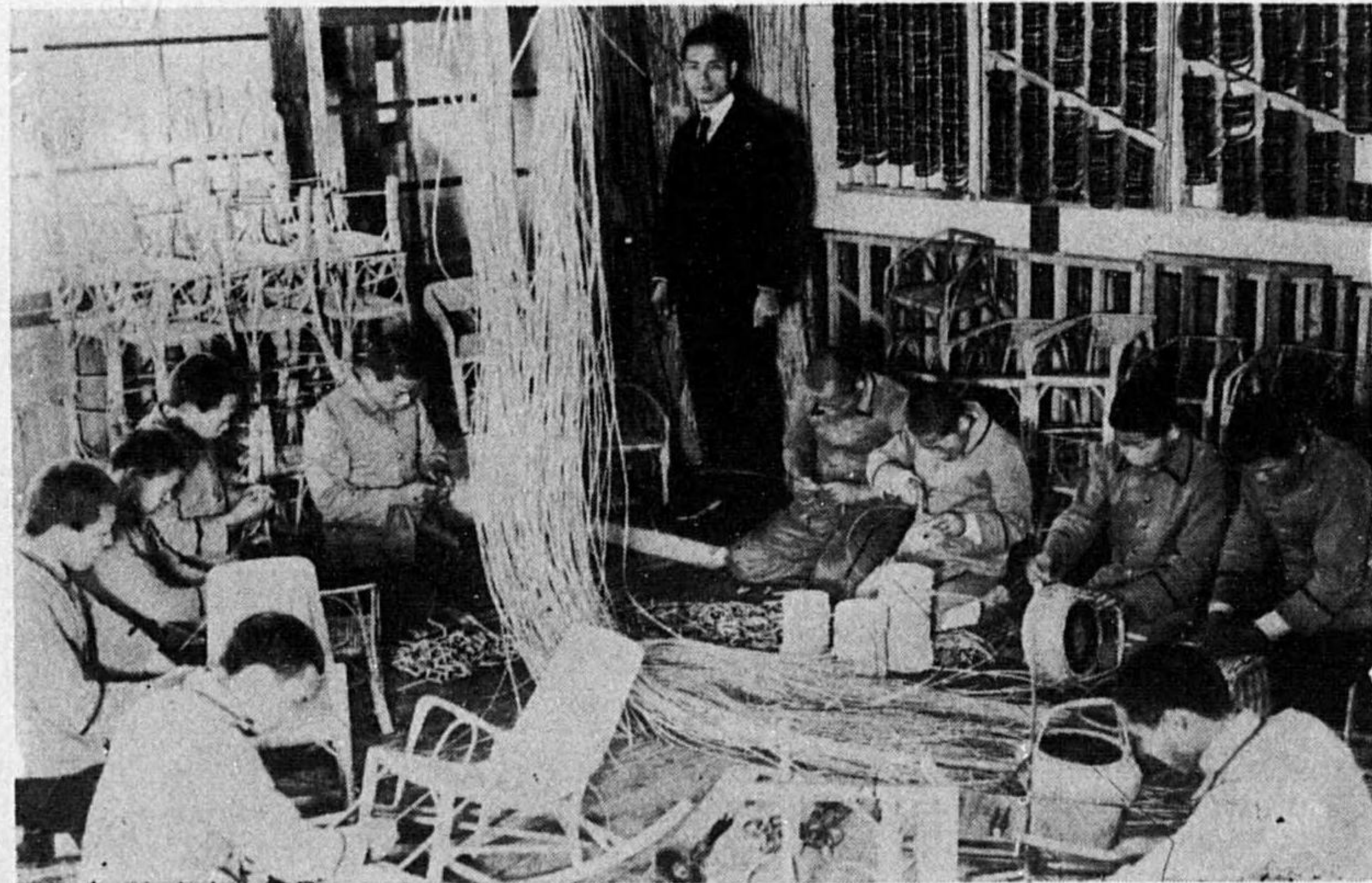


室 養 保

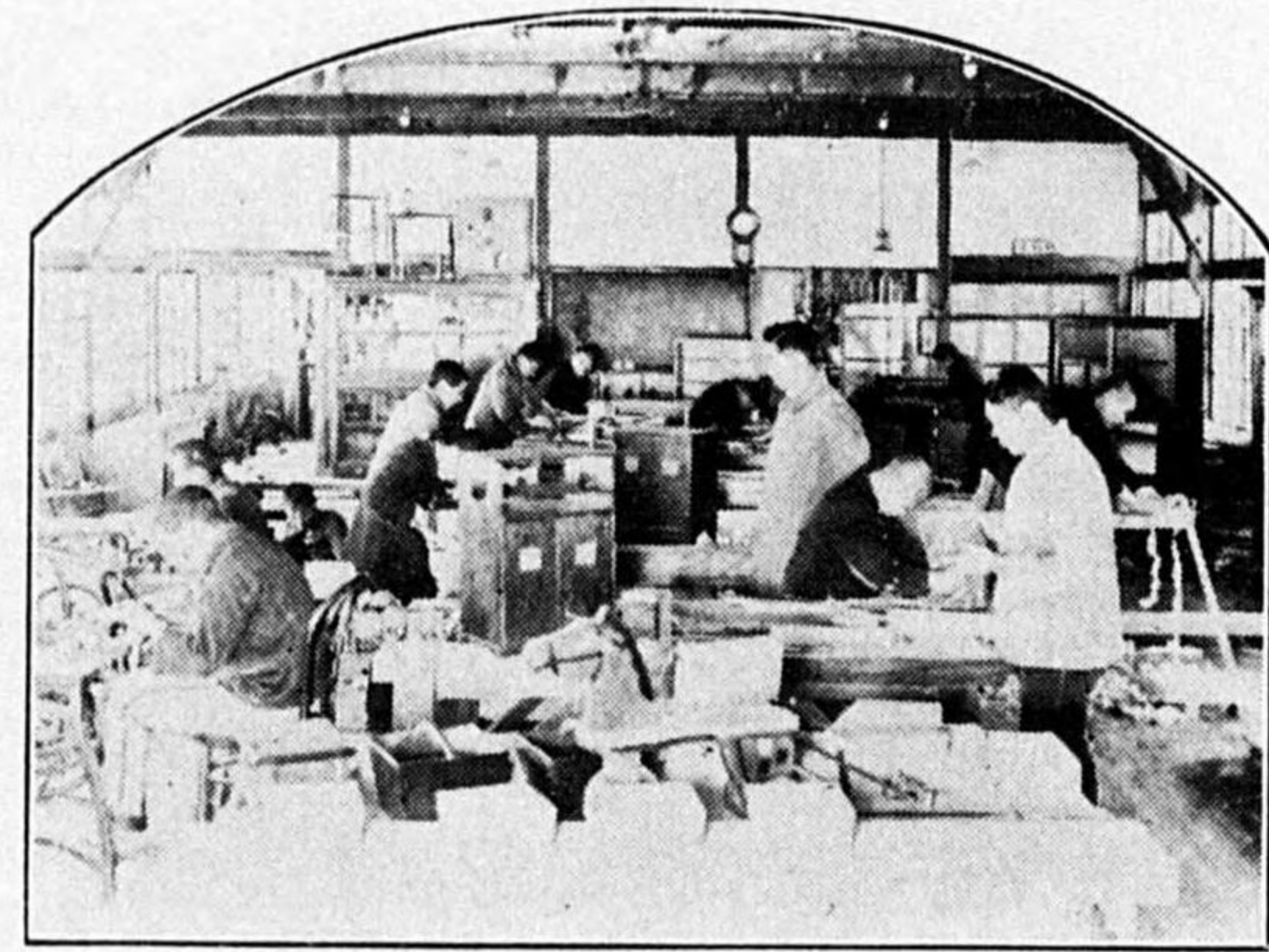
※及心理研究室等あり院生の診療と心性考査
とを掌る。



室 教 刷 印

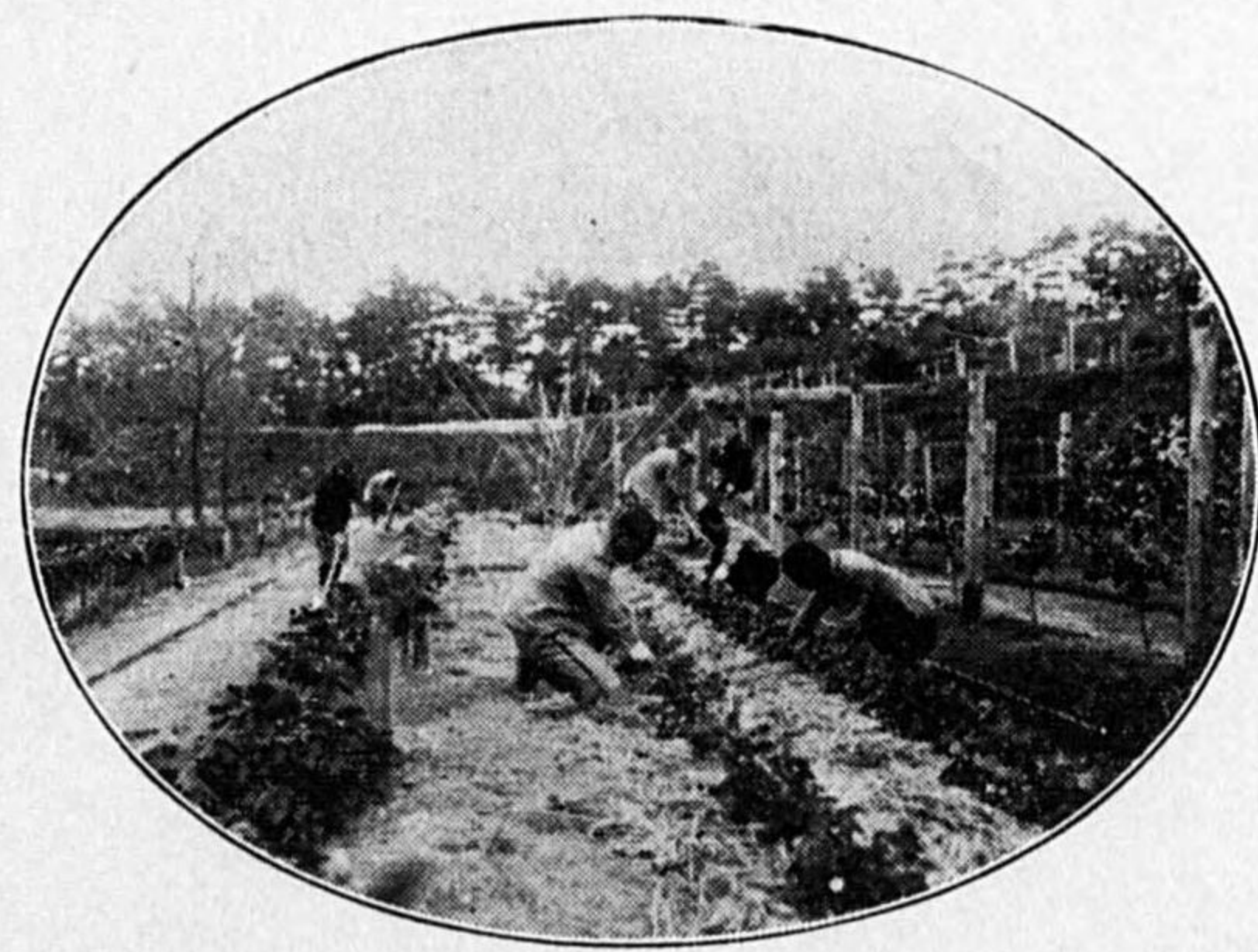


室 教 工 藤



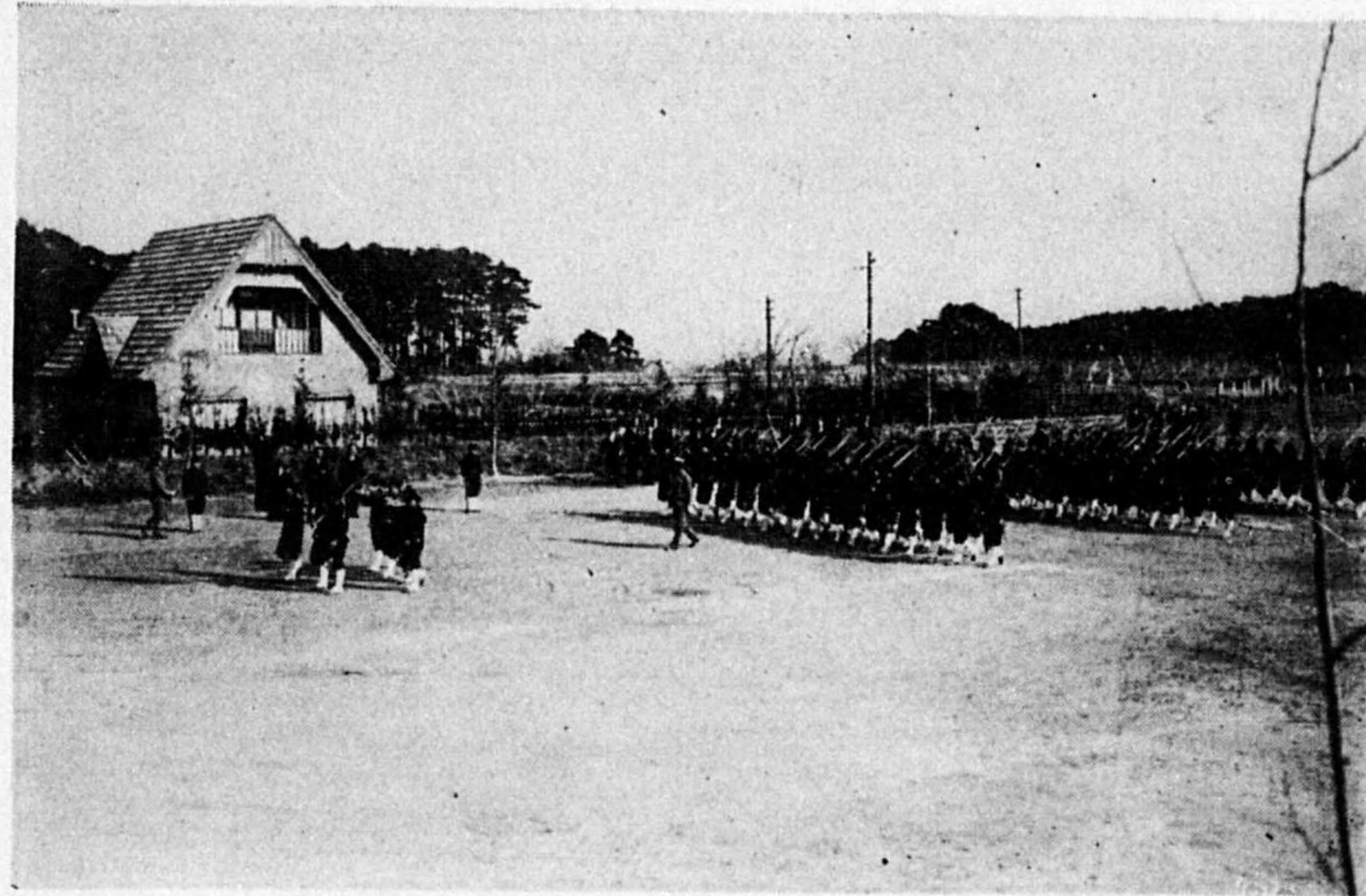
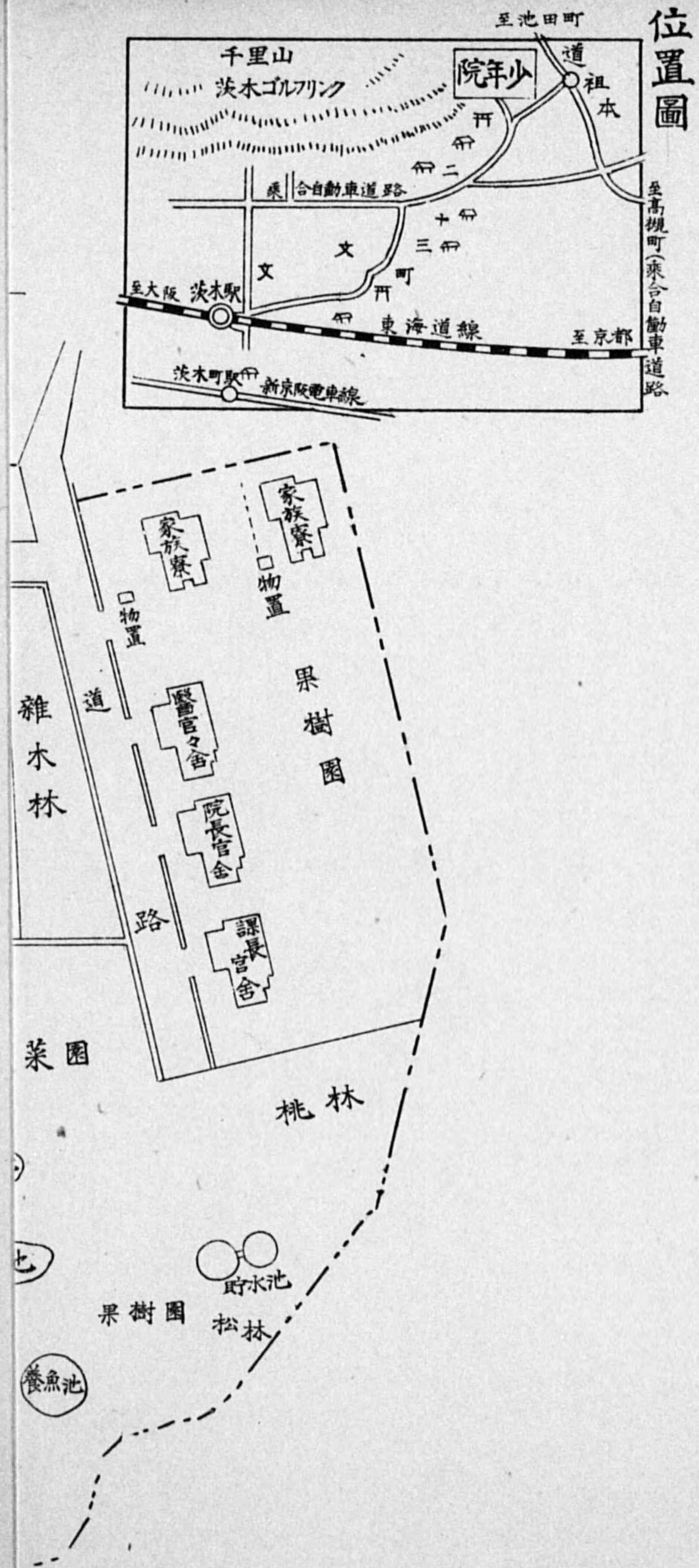
室 教 工 木

實科教育は木工、印刷、藤工、縫工及園藝の五科に分
れ、院生の個性に應ぜるものを選びて之を習得せしむ。



園 菜 蔬 樹 果

園藝實習地約二町歩、院生をして清新なる大氣と豊富
なる陽光の下に在りて自然に親ましめ、兼ねて果樹、
蔬菜、花卉及養蠶、養豚等の業を習得せしむ。



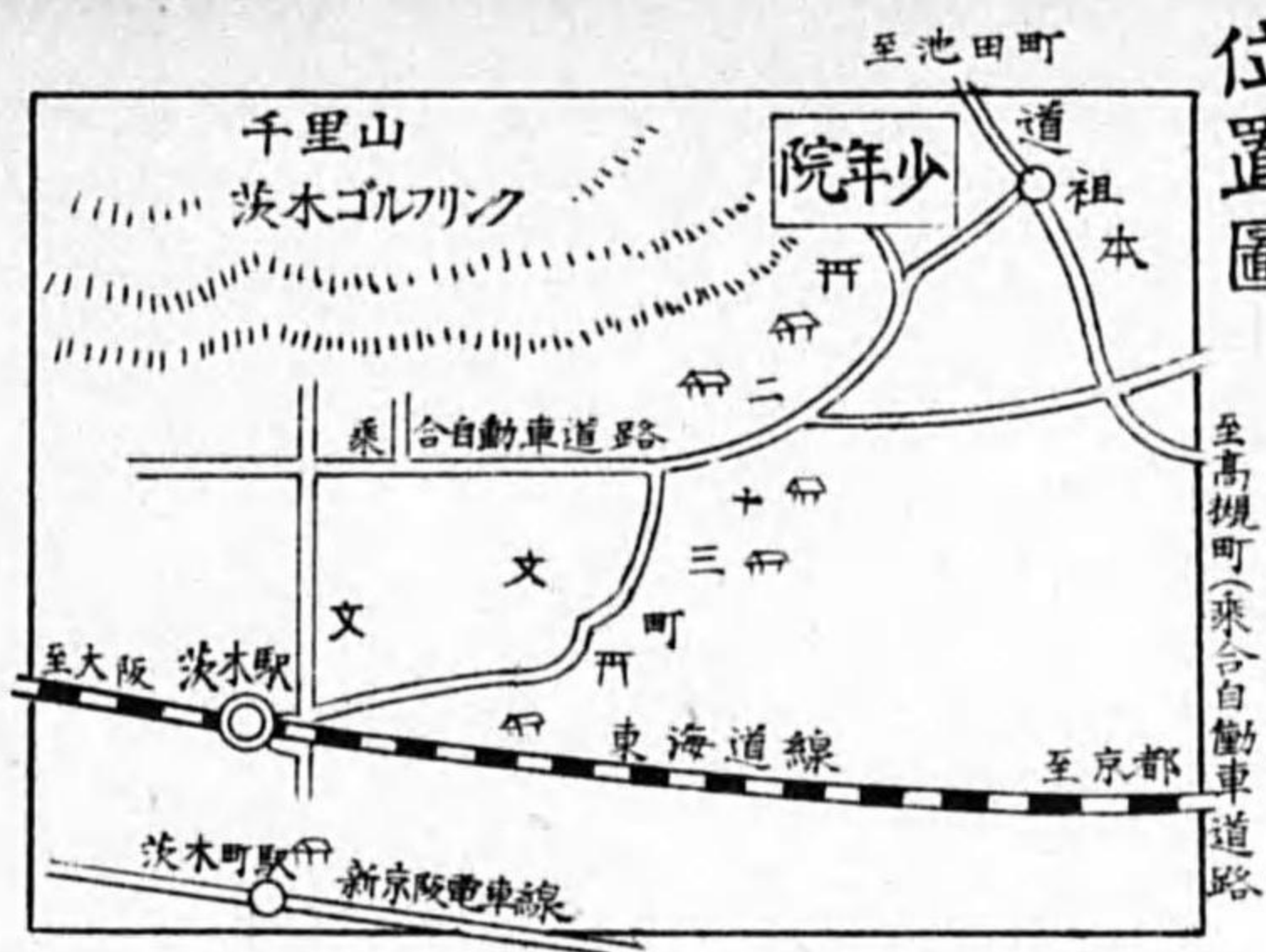
練 教 事 軍



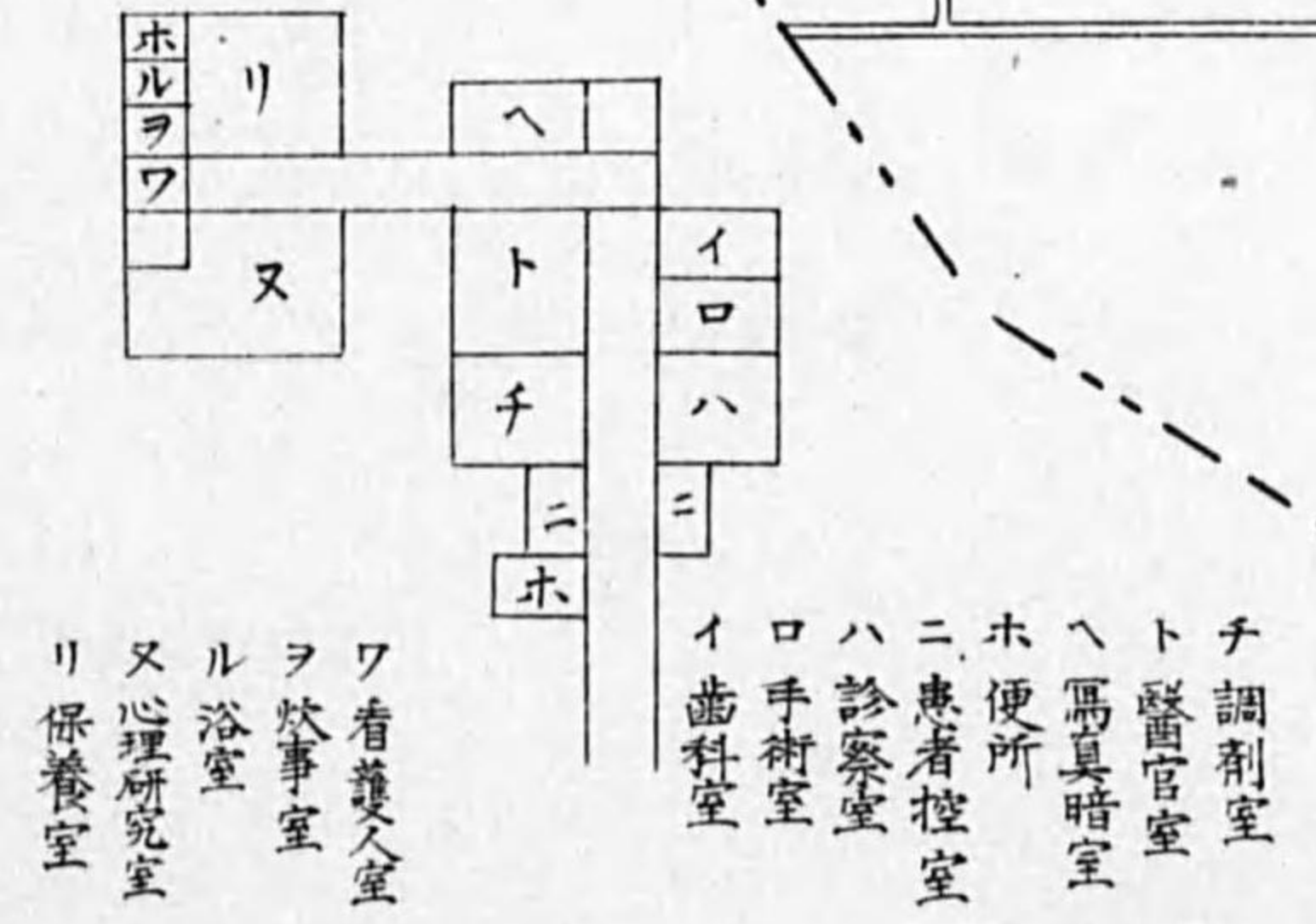
働 勞 外 野

國立浪速少事院平面圖

位置圖



醫務室詳細圖



浪速少年院要覽

一、所 在 地

本院は大阪府三島郡春日村の西方千里山の丘上に在り、地幽寂にして花木清秀、東南は攝河の平野を隔て、生駒、金剛の翠巒に對す。東海道線茨木驛を距る西北二十三丁。(大阪市を距る五里余)

二、沿 革

大正十一年四月十七日少年法(法律第四十二號)及矯正院法(法律第四十三號)公布せられ東京、大阪の兩地に少年審判所及矯正院を設立することとなり、大阪に在りては同十一年十二月十八日府下三島郡春日村に地を相し本院の創立を見るに至り之を浪速少年院と命せらる。大正十一年十二月第一期建築工事に着手し同十二年八月三十一日完成す。同十二年一月一日院長以下職員の任命を見る。同年十月六日始めて少年を收容す。同十四年八月第二期増築工事を起し學寮、家族寮、洗心寮、食堂、浴室、病室及心理研究室等を建築し同十五年八月三十一日竣工す。昭和二年八月地を大阪市北區若松町大阪少年審判所隣接地にトし本院出張所新設の工を起し、同年十二月十五日竣工、假委託生を收容す。

三、目 的

本院は矯正院法第一條に依る少年を收容し其薫化教養を掌るを目的とす。

矯正院法第一條矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス

浪速少年院要覽

九、教育施設

一、寮舎教育

洗心寮 新に入院する者ある時は先づ之を洗心寮に收容し所定の制服を着用せしめ、本院教養の趣旨を諭示し、一室に静坐して深省を發せしむるに努め、其間心身の診査、性行境遇の調査、學力技能の檢定等を行ひ諸般の考査終了の後、之を學寮に轉せしむ。

學寮 學寮は七棟(東三棟、西四棟)より成り、年齢性行其他により先づ之を東西第一學寮の一に居らしめ成績の向上を俟つて累進して第二乃至第四學寮に移つらしむ。

學寮内に在りては特に嚴格なる規律の下に日夕の行事を習熟せしめ克己復禮の良習慣を養成するに努めしむ。各學寮には又寮長副寮長各一名を置き能く本院教養の精神を體得して寮内綱紀の伸張を圖ると共に院生相互提撕誘掖して修養の事に當り以て堅實なる寮風の樹立に努めしむ。

家族寮 家族寮は六棟八戸より成る。入院後既に數ヶ月を閲し成績優良なる者を選びて之を家族寮に收容し、職員家族と起居寢食を共にせしめ、靄然たる和氣の裡に更らに其性情を陶冶し、社會生活の規範に順應するの素養を習得せしむ。

二、學科教育

入院時智能及學力を檢定し、尋常高等小學校及中學初等科に準じたる學科を授け、智能の啓發と徳性の涵養とに資せしむ。又精神薄弱者の爲めに特殊學級を設く。

三、實科教育

實科は之を園藝、木工、縫工、藤工及印刷の五科に分ち學科教育と相俟つて少年の反社會性を陶冶し兼ねて生活に必要な實業を習得せしめんことを期す。新入院生は先づ之を園藝科に編入し圃場に於て勞作に従事せしむ。是れ土に親しむは人間自然の性能にして、清新なる大氣と豊富なる陽光の下に勞務に従事するは少年の性能を陶冶薰育するに最適のものあるを以てなり。居ること兩三ヶ月にして其適性を考査して諸他の實業教育を授く。

四、娛樂的施設

荒廢せる少年の心情を融和薰陶せんが爲めに本院は音樂、繪畫、遊戲、競技其他各般の美育的施設を完備して情操教育を振作せんことを期せり。

十、醫務施設一班

土地高燥にして風光明媚、氣を養ひ神を怡ばしむるの勝地なりと雖ども、院生中には心身共に薄弱又は異常なる者頗ぶる多きが故に、精神の診査並に保健衛生に關する施設は努めて之が完備を期し、精神科及内科專攻の醫官各一名ありて鑑査及診療を掌り、教育諸般の施設と相俟つて身心の改造、性格薰化の事に當る、醫務室は二棟より成り醫官室、診察室、調劑室、手術室、齒科室、眼科及寫眞暗室、心理研究室、病室、浴室及看護人室等を有す。

十一、心性考査

特に心理學の見地より、推理、記憶、想像、學習、注意等の一般素質を探究し、保護教育の基礎概念を確立すると共に、適性検査を施行し以て各性能に適應する職業を甄別し將來社會人としての生活の指導に努む心理研究室備付の検査用器具の重なるもの左の如し。

- 一、力量調節検査器
- 二、運動速度検査器
- 三、學習力検査器
- 四、作業速度検査器
- 五、握力計
- 六、構成力検査器
- 七、記憶力検査器
- 八、光度辨別検査器
- 九、空間辨別検査器
- 十、聽力検査器
- 十一、注意力検査器
- 十二、共應動作検査器
- 十三、刺戟反應裝置
- 十四、指頭安定測定器
- 十五、直立安定度器
- 十六、肺活計
- 十七、計算尺
- 十八、運動度記憶検査器
- 十九、一般智能検査用紙
- 二十、色盲表、視力表
- 二一、メトロノーム
- 二二、ストツブウオツチ

矯正院法

法律第四十三號

大正十一年四月十七日

- 第一條 矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス
- 第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十三歳ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第三條 矯正院ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク
- 第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ク
- 第五條 十六歳ニ滿タサル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス
- 第六條 矯正院ハ之ヲ國立トス
- 第七條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス
- 第八條 司法大臣ハ少クトモ六月毎ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ
- 第九條 少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ
- 第十條 矯正院ニハ其性格ヲ矯正スル爲メ嚴格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ施シ其生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム
- 第十一條 矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得
- 第十二條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在

矯正院法

七

院者及ヒ假退院者ノ爲メ親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲ス事ヲ得

第十二條 矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲシテ退院セシムヘシ

第十三條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタル者ニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得 假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ附ス

第十四條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第十五條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正十一年十一月九日勅令第四百八十七號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行ス

矯正院處遇規程

司法省令第三十四號
大正十一年十二月十八日

第一章 收容

第一條 少年ノ收容ハ當該官廳ノ送致書、委託書又ハ入院許可ノ裁判書ニ依ル

第二條 少年ヲ收容シタルトキハ送致又ハ委託ヲ爲シタル官廳ニ通知スベシ

第三條 入院者ニ付テハ各別ニ少年簿ヲ作り之ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條 院長ハ入院者ニ對シ遵守事項及心得事項ヲ説示スヘシ

第五條 入院者ニ付テハ其ノ性行境遇經歷學術技藝ノ程度心身ノ狀況等身上ニ關スル事情ヲ精査シ其ノ結果ニ基キ居室及修習スヘキ學科實科ノ種類程度ヲ定ムヘシ

第六條 在院者ノ處遇ニ關シ必要ナル取調ヲ爲スニ付テハ少年審判所ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第二章 教導

第七條 院長ハ中學校及實業學校程度以下ノ學校ニ準シ課程及教科目ヲ定メ且教科用圖書ヲ選定シ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 院長ハ在院者ノ矯正ニ有益ナリト認ムルモノニ限り教科外ノ圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得

第九條 休日ニハ在院者ヲ休養セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ其ノ心身ノ修養、鍛練ニカムヘシ

第十條 祖父母又ハ父母病篤キトキハ在院者ヲシテ往訪セシムルコトヲ得

第十一條 祖父母又ハ父母死亡シタルトキハ三日間謹慎セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ祭祀ヲ行ハシ

ムルコトヲ得父母ノ祭日亦同シ

第十二條

一月一日紀元節及天長節祝日ニハ在院者、參集セシメ左ノ順序ニ從ヒ式ヲ舉クヘシ

一、職員及在院者「君カ代」ヲ合唱ス

一、院長教育ニ關スル勅語ヲ奉讀シ其ノ義ヲ衍フ

一、職員及在院者祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

第十三條

院長ハ學科及實科ノ成績證明書ヲ授與スルコトヲ得

第三章 賞罰

第十四條

院長ハ在院者ノ成績ニ鑑ミ左ニ掲クル等級ノ褒賞ヲ與フルコトヲ得

一、褒 狀

二、賞 與

三、賞 票

院長ハ賞票ニ付更ニ種別ヲ設クルコトヲ得

第十五條

院長ハ成績特ニ優良ナル在院者ニ對シ左ニ掲クル殊遇ヲ與フルコトヲ得

一、特ニ設ケタル居室、器具其他ノ設備ノ使用

一、組長其他名譽トスル地位ノ授與

一、定時又ハ臨時ノ外出

第十六條

在院者紀律ニ違背シタルトキハ院長ハ情狀ニ依リ左ニ掲クル懲戒ヲ行フコトヲ得

一、譴 責

一、褒賞ノ剝奪

一、端 座

一、直 立

一、屏 居

前項ノ懲戒ニ依リテハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ體罰ヲ行フコトヲ得

第十七條

懲戒ハ在院者ノ心身ノ狀況ニ注意シテ之ヲ行フヘシ

第四章 給養

第十八條

在院者ニハ衣類、寢具、學用品及雜品ヲ交付ス

第十九條

院長ハ在院者一人ニ對シ貸與又ハ給與スヘキ物品ノ種目、員數及使用期間ヲ定メ司法大臣

ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條

貸與品又ハ給與品ニ付テハ其ノ區別ニ從ヒ貸與品簿又ハ給與品簿ニ必要ナル事項ヲ記載ス

ヘシ

第二十一條

在院者ノ食物ハ之ヲ給與ス

院長ハ主食物ノ種類及分量ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

副食物ハ每週獻立表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二十二條

大祭日祝日其他院長適當ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス特別ノ食物ヲ給與スルコトヲ

得

第二三條 自辨品ハ在院者ノ紀律、衛生ニ害ナキ限り其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第五章 衛生及診療

第二四條 疾病其他已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外入院者ヲ入浴セシメ健康診断ヲ行フヘシ

第二五條 居室衣類寢具等ハ在院者ヲシテ之ヲ整頓セシムヘシ

第二六條 在院者ニハ院長ノ定ムル所ニ依リ理髪及入浴ヲ爲サシムヘシ

第二七條 春秋二回在院者ノ體格検査ヲ行ヒ必要アルトキハ臨時健康診断ヲ行フヘシ

第二八條 傳染病發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシテ應急適切ナル處置ヲ爲スヘシ

第二九條 傳染病發生シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

第三十條 在院者ニハ疾病豫防ノ爲メ必要ナル醫術ヲ行フヘシ

第三一條 在院者重病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨委託ヲ爲シタル官廳、親權者、後見人、戸主其他ノ保護者ニ通知スヘシ

第六章 面會及通信

第三二條 在院者ハ院長ノ許可ヲ受ケ面會又ハ通信ヲ爲スコトヲ得

第三三條 面會ハ應接室ニ於テ之レヲ爲サシムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ他ノ場所ニ於テ之レヲ爲サシムルコトヲ得

第七章 領置

第三四條 院長ハ在院者ノ所有品ヲ領置シ適當ト認ムルトキハ之ヲ其ノ親權者若クハ後見人ニ交付シ又ハ本人ヲシテ賣却其他ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

領置スヘキ物品ハ本人立會ノ上其種目及員數ヲ點檢シ領置品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第三五條 在院者所有ノ金錢ハ本人立會ノ上其ノ金額ヲ計算シ本人ノ名ニ於テ郵便貯金ノ手續ヲ爲シ

其通帳ハ院長之ヲ保管シ領置金簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第三六條 在院者ニ寄贈ノ申出ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第三七條 領置ノ金品ハ退院又ハ假退院其他領置ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ還付スヘシ但シ在院中ト雖モ必要アリト認ムルトキハ之ヲ在院者ニ交付スルコトヲ得

第八章 退院及假退院

第三八條 院長在院者ノ退院ノ許可ヲ求ムルニハ在院中ニ於ケル行狀及學科實科ノ成績ヲ表示シテ之ヲ爲スヘシ

第三九條 在院者ノ假退院ノ許可ヲ求ムルニハ前條ニ定ムル事項ノ外假退院後遵守スヘキ條件及保護ヲ引受クヘキ適當ノ者アルトキハ其ノ氏名住居職業假退院者トノ關係、保護ヲ引受クヘキ適當ノ者無キ時ハ其ノ事由ヲ表示スヘシ

第四十條 假退院ノ許可アリタルトキハ直ニ假退院ノ日時ヲ定メ保護ヲ引受クヘキ者及住居ノ地ヲ管

轉スル少年審判所ニ通知スヘシ

第二一條

住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ハ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司ヲ定メテ矯正院ニ通知スヘシ

第二二條

院長ハ假退院ヲ許スモノニ假退院證ヲ授與シ遵守スヘキ條件ニ付說示シ保護ヲ引受クヘキ者又ハ少年保護司ニ引渡スヘシ

第二三條

前條ノ引受ヲ爲シタルトキハ院長ハ之ヲ司法大臣ニ申報シ假退院ヲ許可シタル少年審判所ニ通知スヘシ

第二四條

假退院者住居ニ到達シタルトキハ其ノ引渡シヲ受ケタル保護者ハ少年保護司ニ届出テ少年保護司ハ矯正院ニ通知スヘシ

第二五條

少年審判所少年保護司ノ申出ニ依リ假退院者ノ行狀其他ノ事由ニ依リ指定ノ條件ヲ變更スヘキ必要アリト認ムルトキハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第二六條

少年審判所假退院者ニ指定シタル條件ヲ變更シタルトキハ之ヲ矯正院ニ通知シ且新ナル條件ヲ文書ニ記載シ少年保護司ヲシテ假退院者ニ交付セシムヘシ

第二七條

少年保護司ハ條件ノ變更ニ付必要ナル說示ヲ爲スヘシ
院長假退院ヲ取消シタルトキハ之ヲ少年保護司ニ通知スヘシ

第二八條

少年保護司前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ入院ノ手續ヲ爲シ假退院證及前條ノ文書ヲ還納セシムヘシ

第二九條

假退院者逃走又ハ死亡シタルトキハ保護ヲ引受ケタル者ハ直ニ少年保護司ニ届出ツヘシ其

ノ軍人軍屬ト爲リタルトキ亦同シ

第三〇條

少年保護司假退院者ノ逃走若クハ死亡シタルコト又ハ軍人軍屬ト爲リタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク矯正院ニ通知スヘシ

第三一條

退院又ハ假退院ヲ爲ス者ニハ事情ニ依リ貸與品ノ全部又ハ一部ヲ給與シ且歸住旅費又ハ相當ノ衣類ヲ給與スルコトヲ得

第三二條

在院者ニ付キ處分ノ取消又ハ變更アリタルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ取扱ヲ爲スヘシ處分ノ効力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第九章 逃走及死亡

第三三條

在院者逃走又ハ死亡シタルトキハ院長ハ直ニ之ヲ司法大臣ニ申報シ送致又ハ委託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ逃走者再ヒ入院スルトキ亦同シ

第三四條

在院者死亡シタルトキハ院長ハ死體ノ檢視其他必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第三五條

院長ハ病名、死因及死亡ノ日時ヲ速カニ親權者後見人戸主其他ノ保護者ニ通知シ死體ヲ引取ラシムヘシ

第三六條

死體ノ引取人ナキトキハ院長ハ成規ノ手續ニ依リ之ヲ假葬シ死者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル墓標ヲ立ツヘシ

附 則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

矯正院處遇規程

昭和四年六月二十日印刷
昭和四年六月二十五日發行
(非賣品)

大阪府三島郡春日村四〇五番地

編輯者兼 浪速少年院

右代表者 小川 恂 臧

大阪府西淀川区浦江北三丁目三九

印刷者 青山重清

大阪府西淀川区浦江北三丁目三九

印刷所 青山印刷所

298
20

終